

## 地域とともに育つ学校 ～研修を通して見えたこと～

### 1 地域連携の意義とビジョンの再確認

「地域と連携する意味」を改めて問い直し、子供の未来と地域の好循環を生む視点を持つことの重要性が共有された。

- ・地域が良くなれば学校も良くなる好循環の視点
- ・教職員の負担増は懸念だが、連携の意義は大きい



“地域が良くなれば学校も良くなる”その言葉が印象に残りました。

### 2 自校の課題と連携可能性の探求

他校との比較を通じて自校の立ち位置を見直し、自分たちにできることを地に足をつけて考える契機になった。

- ・自校の特徴・地域性を踏まえた連携の在り方模索
- ・既存の関係を見直し、少しずつ年輪のように拡げる



うちの学校なりの連携のかたちを探っていこうと思いました。

### 3 具体的事例・演習による気づき

他校や他地域の取り組み事例、演習を通して、実践の具体像と自校への応用可能性を実感することができた。

- ・他地域の「やり方」から、自校の可能性を考える
- ・講師の説明、ワークショップで理解が深まった



鹿原小のような事例は、自校でもヒントになります。

### 4 持続可能な仕組みづくり

「無理なく、続けられる」ことの大切さに気づき、形にとらわれず自校らしさを活かす工夫が求められている。

- ・お礼の簡略化・活動負担の見直し
- ・善意や根性に頼らない運営の重要性



「本校なりのやり方を、無理なく続けていきたいと思います。」

### 5 担当者としての自覚と成長

地域連携担当としての役割や視点を再確認し、目的や効果を見据えて職務にあたる意識が高まった。

- ・「自分ごと」になった連携のあり方
- ・自分の行動で変化が起きるという気づき



“連携の目的って何？”を考えるきっかけになりました。

### 6 地域資源・人材の活用

学校だけでなく地域の力を借りる発想へと転換し、人とのつながりの可能性に注目が集まった。

- ・ICT、家庭教育支援など学校外の力を借りる視点
- ・コーディネーターや外部団体との連携がカギ



地域にも手伝ってもらえるんだ、と気づきました。

### 7 顔の見える関係づくり

書類上ではない“人與人”の関係を築く重要性が再認識され、信頼をベースにした協働の土台が見えた。

- ・「人與人」のつながりを大切にしたい
- ・書面ではないリアルな信頼関係の重視



やっぱり“顔の見える関係”って大切ですね。

### 8 研修が生んだ視点の転換

研修を通じて意識の変化が生まれ、「やらされ感」から「やってみたい」へと転じた参加者が多かった。

- ・共に考える場が意識を変える
- ・「地域連携って大変…」が「やってみたい」へ



初めて参加しましたが、前向きになりました。

### 9 目的から設計する活動へ

「なんとなくやる」ではなく、子どもに何を育てたいから逆算する発想へ。活動設計の質が問われている。

- ・“なんとなく”を卒業しよう
- ・活動前の「対話と計画」が肝になる



自己満足でない、実感のある連携を子どもに身に付けたい力から計画を立てたいと思います。

## 地域とともに育つ学校に向けて

一つの答えがあるわけではない。だからこそ、自校の地域を見つめ、できるところから、つながりを「育てて」いく発想が求められている。